



写真：苔むした倒木から生えているマンネンタケ（撮影：令和2年8月21日）

「マンネンタケ」

マンネンタケ *Ganoderma lucidum* タマチョレイタケ目 マンネンタケ科

別名「靈芝（れいし）」

木々は葉を落とし、時折冷たい風が吹くと、これから来る冬を感じさせます。美しい花々を楽しむのはまた春までお預けになります。霧島山の森は一年を通して多く生き物に出会うことができます。硬質なきのこ、サルノコシカケの仲間「マンネンタケ」もその一つです。

「靈芝」という名前の方が一般的かもしれません。古くから漢方薬として知られ、近年は栽培されたものが販売されています。全国でさまざまな呼び名があり、「幸茸（さいわいたけ）」、「祝茸（いわいたけ）」などと呼ばれています。福を呼ぶきのことと、マンネンタケを玄関に飾っておく風習があるほどです。

広葉樹の切り株や枯れ木から細い柄の部分がニョキニョキと伸び、最後に上部の傘を広げます。出始めは黄色のような色ですが、成長すると茶色から紫色になり、ニスを塗ったような光沢を持ちます。霧島山の森の中、この小さな幸せを探しに歩いてみませんか。

（文）えびのエコミュージアムセンター